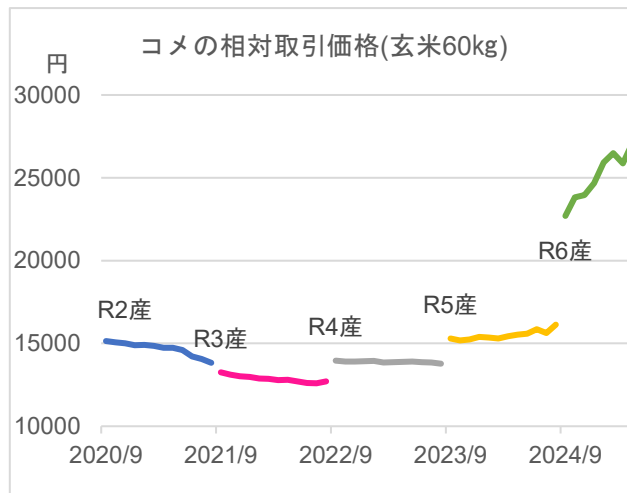


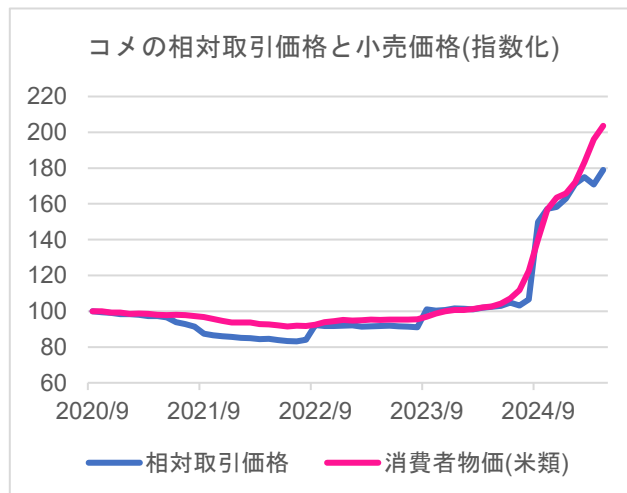
コメ価格の高騰について

コメの価格高騰と小泉農相の奮闘ぶりが連日メディアで報道されています。そこで今回の CBCA NEWS では、コメ価格の高騰について、データを基に検証してみたいと思います。(データの出所:「農林水産省(コメの相対取引価格および民間在庫)」、「総務省(消費者物価指数)」)

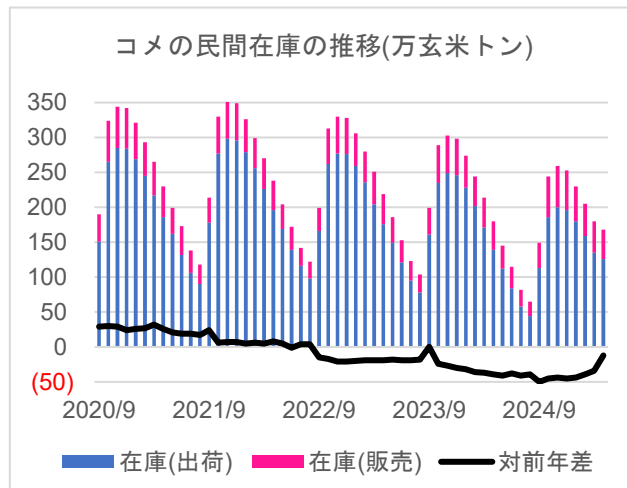
コメ価格の推移



まず、コメの流通過程における川上の取引価格を見てみましょう。左上のグラフは、JA 全農などの(集)出荷業者と卸売業者間で主食用米を取引する際の価格「相対取引価格」(玄米 60 kg あたり)の推移です。令和 2 年産米は 15,000 円程度で始まりましたが、翌 3 年産米にかけて下落基調となりました。しかし、令和 4 年産米以降は価格が上昇に転じ、5 年産米の後半は騰勢を強めました。令和 6 年産米になると、価格は落ち着くどころか暴騰し、2025/4 では 27,000 円程度の高値で取引されています。

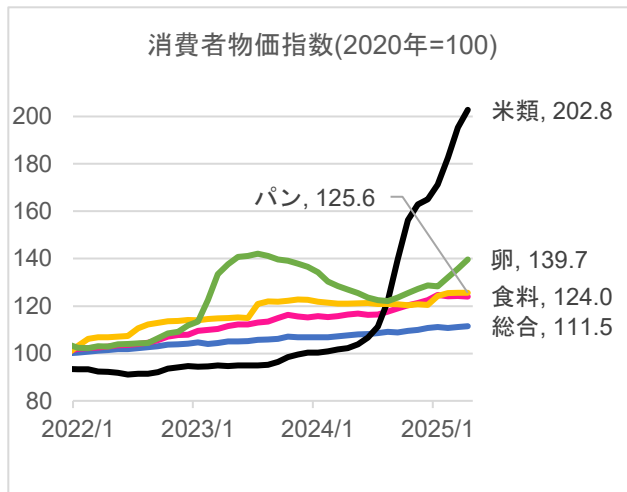


次に、コメの小売価格を見てみましょう。左中のグラフは、コメの相対取引価格と小売価格を指数化して比べたものです。(※小売価格は消費者物価指数の品目「米類」。) 2020 年から 2023 年にかけて小売価格は安定的に推移しました。しかし、2024 年になると徐々に上昇基調となり、令和 6 年産の新米出荷を待たずに価格は高騰、その後は相対取引価格の暴騰と歩調を合わせた動きとなりました。2025 年に入ると、相対取引価格の上昇以上に小売価格の高騰が目立つ展開となりました。



続いて、コメの価格変動に影響を与える在庫の状況を見てみましょう。左下のグラフは、全農などの出荷業者と販売業者(卸売+小売)の在庫の推移を表したものです。(※在庫の調査対象は玄米の取扱いが一定量を超える業者。) コメの在庫は、新米が集荷される年後半に積み上がり、翌年の新米の時期まで徐々に減少するサイクルを繰り返します。コメ価格が上昇に転じた 2022 年後半から、出荷業者における在庫の減少が見受けられます。2024 年になるとさらに減少し、在庫がひっ迫した状況となりました。一方、卸売業者の在庫は前年と同程度の水準が確保されています。

🌾 コメと他の食料との比較



ところで、コメの価格上昇は、他の食料の価格上昇と比べてどうなのでしょう。左のグラフは、消費者物価指数の「米類」を他の品目などと比較したものです。2020 年を 100 とした総合指数は 2025/4 では 11.5%の上昇、食料全体では 24.0%の上昇となっているのに対し、米類は 102.8%の上昇となっています。コメ価格の動きが独特で、最近の上昇が抜きんでいることが一目瞭然です。

ここで、家計におけるコメ高騰の影響を確認してみましょう。総務省の家計調査等によると、1 人 1 月あたりの食費は 4 万円を超える水準と

いわれています。また、農水省「令和 5 年度食料需給表」によると、1 人 1 年あたりのコメ消費量は 51.1 kgです。ここで 2020 年当時、1 月あたりの食費が 4 万円、1 年あたりのコメ消費量 50 kgの、標準的な日本人 A さんがいたと仮定しましょう。当時のコメ小売価格を 2,400 円/ 5 kgとすると、1 月あたりのコメ支出額は 2,000 円(=2,400 円×10÷12 月)となります。さて 2025/4 現在、消費者物価指数を基に計算すると、A さんの 1 月あたりの食費は 49,600 円(=40,000 円×1.24)、うちコメへの支出分は 4,056 円(=2,000 円×2.028)となります。1 月あたりの食費は、合計で約 1 万円増加、うちコメへの支出分で約 2 千円増加となります。コメだけで月 2 千円の支出増はもちろん小さくはないですが、食費全体で 1 万円増加しているのならば、主食であるコメの 2,000 円増は、やむを得ないと感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

🌾 まとめ（データを受けた推察）

コメの在庫減少にみられるように、近年コメの需給が変化し、供給不足になっている可能性が高いと判断されます。出荷業者として大きなシェアを誇る JA 全農は、以前は手元在庫をコントロールしながら価格を安定的に推移させる機能を担っていたと思われます。ところが近年、他の流通ルートにシェアを奪われ、十分な在庫を確保することができず、価格調整機能を失ったようです。世間ではコメ価格の高騰に関して全農悪玉論が飛び交っていますが、実態は逆で、全農がシェアを低下させたことから、コメ価格が不安定になり、高騰しやすくなったと考えるのが妥当でしょう。全農もそう言いたいところでしょうが、すると以前は価格を操作していたと公言することになるので、痛しかゆしでしょうか。古米入力で全農が殆どを落札したのは、じつは在庫確保のためだったのではと筆者は勘ぐっています。

足下、小売価格が相対取引価格に比べて割高なので、備蓄米放出の効果により、足下の需給が緩み、ブランド米も 1 割程度下落する可能性はあります。ただし、根底にある受給が緩まない限り、それ以上の価格下落は難しいでしょう。なお、全農の機能が低下した今、以前のようにコメ価格がいつも安定的に推移することは難しくなりました。コメ価格の安定のためには、新たな価格形成の方法を模索する必要がありますが、政府が新たな価格安定化策を導入する可能性も十分に考えられます。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒105-0012

東京都港区芝大門 1-1-32

御成門エクセレントビル 8 階

TEL : 03-6459-0161 FAX : 03-6435-7717

mail_jimukyoku@cbca.jp <http://www.cbca.jp>

お問い合わせ先